

2. 認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

● 国際福祉開発学部国際福祉開発学科（中一種免（英語）・高一種免（英語））

①教員養成に対する理念

21 世紀に入って、地球環境問題、人口・食糧・資源問題、「人間の安全保障」問題など、人間福祉をめぐる環境は、個別地域から世界規模にまたがって大きく変化しようとしている。その中で、持続的な開発へ向けて、市場・政府・市民社会それぞれの役割も変容を迫られ、それら独自の機能の上に、融合化された複合領域が新たに創出されつつある。そこに、多様な福祉資源とその連携を要求する新たな福祉社会像が展望され始め、それを担う幅広い知見とマネジメント能力を備えた人材が求められている。

本学部ではこうした要請に応えるために、福祉を理解し、英語を駆使して、組織運営と地域貢献を担える人材を養成することを目標とし、「国際的な視野に立つ福祉開発」分野を学部の研究対象の中核としている。また、国際社会で活躍するためのツールとしての確かな英語力の養成、とりわけ実践的なコミュニケーション能力の開発を重視している。英語能力については、実用英語検定試験準 1 級、TOEIC730 点、TOEFL(PBT)550 点、iBT180 点あるいは IELTS(general)6.0 を学生に取得させることを目標としている。

本学科では、英語科の教諭は、単に英語に長けているだけでなく、国際感覚を持ち、国際的な視点で実践的な英語を教えることができる人材を養成することをめざしている。

②教職課程の設置趣旨と特徴

【中一種免（英語）・高一種免（英語）】

これからの英語科教員は、単に英語に長けているだけでなく、国際感覚を持ち、国際的な視点で実践的な英語を教えることのできる人材が求められている。また、英語を活用したコミュニケーション能力も必要な要素である。とりわけ、昨今の情報化の進展も見据えつつ、ICT を積極的に活用した教育が行える人材を養成することを目標に、国際福祉開発学科において、中学一種免許状（英語）・高等学校一種免許状（英語）取得のための課程を設置している。

実践的な英語によるコミュニケーションの総括科目として「国際フィールドワーク I」を置いている。1 年次の末にフィリピンなどで 2 週間半～3 週間の研修を実施している。また、本学では平成 17（2005）年度よりインターネットによる「オンデマンド型」の授業を開講しているが、本学科の授業科目として「英語基礎 I」等を開講している。

さらに、「メディアデザイン」等の科目を置き、学生に実際の ICT 活用について学ばせるとともに英語科教員としてメディア教材を作成する場合の技術等の修得機会を設けている。

このように本学部では、海外フィールドワークや ICT などの多様なメディアを組み合わせ、実践的かつ効果的な英語教育を行うことができる人材養成に力を入れている。